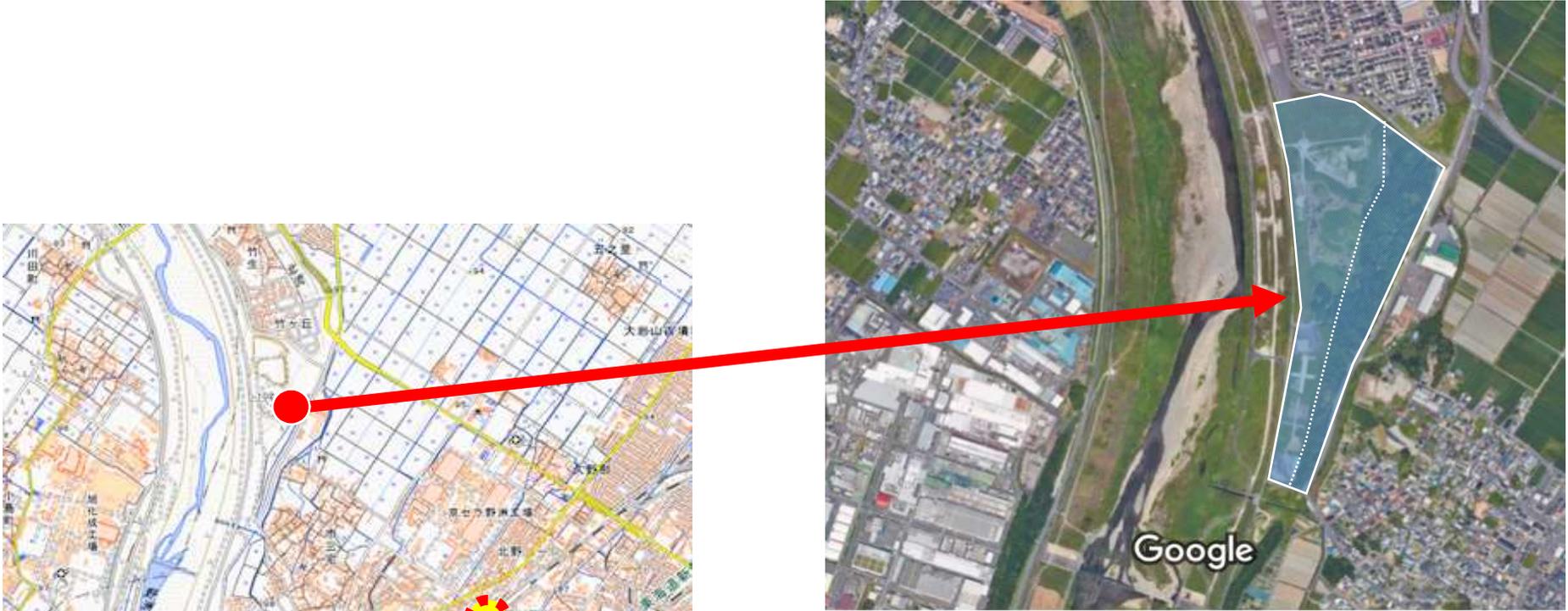
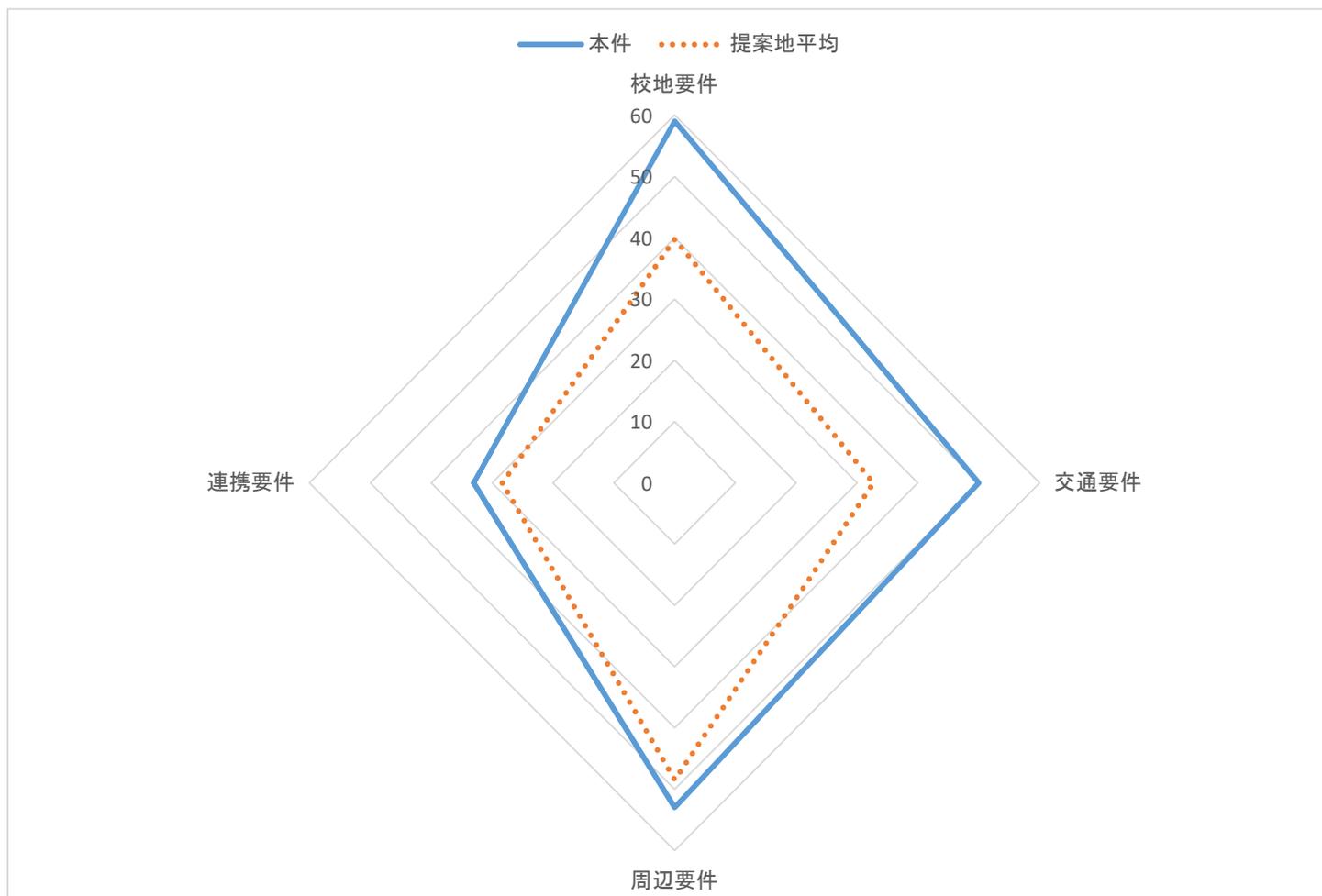


5 野洲市旧野洲川跡地

<p>所在地 所在図 土地形状</p>	<p>野洲市市三宅</p>  <p>地理院地図より作成</p> <p>画像 ©2022 CNES / Airbus、Maxar Technologies、Planet.com、地図データ ©2022 200 m</p>
<p>交通条件</p>	<p>JR琵琶湖線 野洲駅 1.3km 自転車6分 徒歩17分</p>
<p>土地面積</p>	<p>149,678.00 m²</p>
<p>法令条件等</p>	<p>県有地+国有地 (国有地に整備する防災公園について、無償使用) 現状: 林(県有地) 河川側帯(国有地) 市街化調整区域 農地でない 埋蔵文化財包蔵地でない</p>
<p>危険度</p>	<p>浸水可能性(10年確率) 0.5m未満 液状化可能性(PL値) PL値5~15未満 周辺の活断層の存在 なし</p>
<p>その他</p>	<p>国有地には、市が防災公園を整備(グラウンド等)。平常時は高専で使用可</p>

5 野洲市旧野洲川跡地



区分	本件	提案地平均	順位
校地要件	59	39.8	1
交通要件	50	32.7	1
周辺要件	53	48.4	3
連携要件	33	28.3	5
総合点	30	12.4	1
小計	225	161.7	1
コスト要件	6	3.1	3
合計点	231	164.8	1

5 野洲市旧野洲川跡地

項		目	配点	内容	評価	点数	
必須要件		① 最低限の校地面積	必須		○		
		② 用地取得の確実性	必須		○		
		③ 法令上、高専の設置が可能	必須		○		
		④ 危険区域の有無	必須		○		
校地要件	安全性	1-1-1	浸水可能性	3	0.5m未満	◎	3
		1-1-2	液状化可能性	3	PL値5~15未満	○	2
		1-1-3	活断層の有無	6	なし	◎	6
	建築・設計の柔軟性	1-2-1	校地面積	30	50,000㎡以上	◎	30
		1-2-2	景観条例や建蔽率等の制限	3	なし	◎	3
		1-2-3	土地の形状	15	造成により整形・平坦・2方向	◎	15
			小 計	60			59
交通要件	通学の容易性	2-1-1	公共交通の利便性	9	8.7本/h	◎	9
		2-1-2	県内からのアクセス（後背人口）	30	43,896	○	20
		2-1-3	県外からのアクセス	15	56,477	◎	15
		2-1-4	通学経路の安全性等	6	危険箇所なし	◎	6
			小 計	60			50

周辺要件	教育上のふさわしさ	3-1-1	騒音・振動・臭気等の有無	9	なし	◎	9
		3-1-2	教育上ふさわしくない施設の立地	9	なし	◎	9
		3-1-3	学生の便利施設の立地	6	コンビニ◎、医院◎	○	4
	地域をフィールドとする多様な学び	3-2-1	特徴的な活動フィールド①	6	創業支援、ビジネスプランコンペ等	○	4
		3-2-2	特徴的な活動フィールド②	6	神輿	○	4
		3-2-3	特徴的な活動フィールド③	3	三上ずいき祭り、本藍染	○	2
	周辺の理解	3-3-1	地元自治体・経済界等による支援	15	自治体、経済界、地域からの強力かつ具体的な支援	◎	15
3-3-2		住宅密集地までの距離	6	近接していない	◎	6	
			小計	60			53
連携要件	教育機関、企業等との連携	4-1-1	高専の学びの方向性と親和性の高い大学との連携による学びの相乗効果	15	30分以内（滋賀大学（大津）、滋賀医科大学、龍谷大学、立命館大学、成安造形大学、びわこ学院大学）	△	5
		4-1-2	同年代の学生・生徒との交流	9	野洲高校（学生・生徒数419人）	△	3
		4-1-3	研究機関等の集積による拠点の形成	15	15分以内（総合病院研究所、ポリテクカレッジ滋賀（近江八幡）） 30分以内（工業技術総合センター、琵琶湖博物館、衛生科学センター、農業技術振興センター、テクノカレッジ草津）	○	10
		4-1-4	工業系企業の集積度	9	30, 304, 510	◎	9
		4-1-5	法人本部との連携	6	車40分	×	0
		4-1-6	その他特色ある主体との連携	6	国土交通省	◎	6
				小計	60		
総合点		当該立地を活かした魅力ある学校づくり	30	<p>（バランス10 個別評価20）</p> <ul style="list-style-type: none"> 各要件において全提案地の平均を上回る。 県有地に加え、国・市との連携により、広大な校地を低コストで確保可能である。また、周辺に製造業の事業所が集積し、それらの企業の教育面の協力による先端的な学びや、周囲の自然環境や国との連携を活かした建設分野の実践的な学びなど、現在検討中の学びの方向性に合致し、多様な教育・実証フィールドを整備可能な優れた提案である。 交通アクセスに最も優れ、県内各地の幅広い範囲からの通学が可能であることに加え、全国の高専の空白地帯を埋める位置に立地することから、県外からの通学も期待できる。 こうした企業、国、大学等との連携や交通アクセスの良さ等を活かし、技術者交流のハブとなる機能を整備することができる。 十分な広さの用地に加え、土地に起因する制約条件も少ないことから、将来の拡張性についても優れている。 			30
			計				225
			コスト要件		造成、伐採（▲4） 施設整備不要分（グラウンド）（+10）		6
			合計		（小計－コスト要件）		231

5 野洲市旧野洲川跡地